

様式2 輸出事業計画

※申請者名：有限会社丸哲、品目：マグロ、ブリ、サーモン、タイ

1. 輸出における現状と課題

(輸出に向けての経緯・課題)

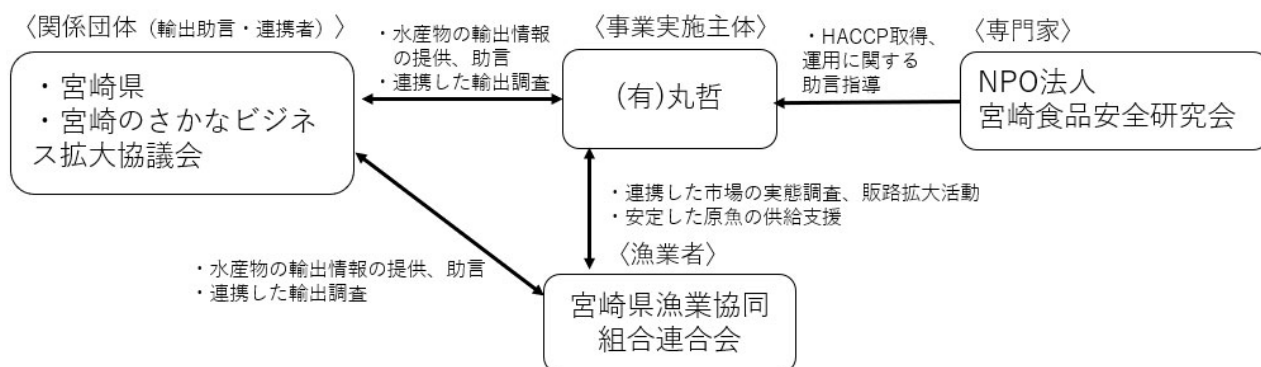
- ・10年前より、マレーシアや台湾、香港などに、鮮魚としてマグロ、タイ類などを輸出しており、2019年（コロナ禍発生前）には7千万円を超える鮮魚の輸出実績を上げていたが、コロナ禍によりその多くの取引がなくなり、鮮魚タイ類の香港輸出だけを何とか続けることができていた（現在は4千万円程度）。
- ・2018年には鮮魚の輸出取引先よりフィレ等の輸出を求められたことから、フィレ等の輸出需要の大きさを感じ取り、2018年10月には、宮崎県漁業協同組合連合会と連携して「第2回日本の食品輸出EXPO」に出展するなど、水産加工品の輸出販路拡大を目指した。
- ・しかしながら、当社の水産一次加工場を視察した商談者から、加工場内の食品衛生環境が不十分だと指摘され、水産加工品の輸出は実現しなかった。
- ・当社は水産加工に関して、一次加工場と二次加工場を持ち、このうち二次加工場は「粉付き水産二次加工品」の対米HACCP承認を得ているものの、一次加工場は半解放式であることなどから、対米HACCP取得は難しいと専門家より指摘されていた。加えて、一次加工場は敷地が狭いため、改修して対米HACCPを取得することは物理的に難しいと設計士などからも指摘されている

2. 輸出事業計画の取組内容

(計画内容)

- ・水産一次加工品の輸出実現に向けて、これまでに取引があり、かつ、加工用原魚（宮崎県産、鹿児島県産、熊本県産）を集荷しやすい位置にある都城市内において、新たに対米HACCPの基準を満たす水産一次加工場を整備することとした。
- ・水産一次加工品の対米輸出に適合する加工場整備を目指し、専門家（NPO法人宮崎食品安全研究会）より設計レイアウト及び施設認定に向けた運用内容などについて、複数回、助言指導を受けているほか、大日本水産会主催のHACCP研修会にも参加している。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

(輸出品目：天然タイ<鮮魚>)

	現状 (令和4年9月)	目標年 (令和11年9月)	備考
宮崎県	輸出額(千円)	43,043	50,874
	輸出量(kg)	61,500	72,600
	輸出先国	香港	香港、台湾
	取扱量(kg)	61,500	72,600

(輸出品目：養殖タイ<フィレ加工品>)

	現状 (令和4年9月)	目標年 (令和11年9月)	備考
熊本県	輸出額(千円)	0	18,108
	輸出量(kg)	0	12,400
	輸出先国	—	米国、カナダ
	取扱量(kg)	6,776.5	32,550

(輸出品目：養殖サーモン<フィレ加工品>)

	現状 (令和4年9月)	目標年 (令和11年9月)	備考
宮崎県	輸出額(千円)	0	29,574
	輸出量(kg)	0	9,500
	輸出先国	—	米国、カナダ
	取扱量(kg)	1,949	18,000

(輸出品目：養殖ブリ<フィレ加工品>)

	現状 (令和4年9月)	目標年 (令和11年9月)	備考
鹿児島県	輸出額(千円)	0	111,800
	輸出量(kg)	0	69,900
	輸出先国	—	米国、メキシコ、台湾、シンガポール
	取扱量(kg)	508	107,500

(輸出品目：天然・養殖マグロ<ブロック加工品>)

	現状 (令和4年9月)	目標年 (令和11年9月)	備考
鹿児島県 宮崎県	輸出額(千円)	0	45,297
	輸出量(kg)	0	22,900
	輸出先国	—	米国、カナダ
	取扱量(kg)	0	32,800